

---

# 帰り道

在形 直

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

帰り道

### 【Nコード】

N7915M

### 【作者名】

在形 直

### 【あらすじ】

職場で鬱々した気持ちが帰り道に切り替わる瞬間。それはちょっとした事。そういう事って大事だったりするんですね。

## (前書き)

昔書いたものです。文章としては雑な部分もあるんだけど、気に入っている。

「おい佐藤！違うだろ、ちゃんと見ろよ」

「はい」私は下をうつむいたまま答える

「聞いてんのか、もっとしやきつとしろよ、心配だよ、ほんとにさあ」

苛苛した上司の声が響く、ああ間違えたよ、わかってるよ、そうだよ、くそっ

上司の中井は部下の失敗を見つけるとまるで、物凄い発見をしたかのような表情をする

しかる事を無上も喜びに感じる人がいるが、彼はその一員だ。

「はい、すみません…」

何度、すみませんと言えはいいのだろうか。

それから10分後、やっと机にもどる、説明やら訳のわからん謝罪（何に對してか途中からさっぱりわからないかった）、最後はなんだか同情されて（なら早く解放してくれよ！）、んで30分たっていた。

これでまた仕事が遅れる…くそったれ！

「佐藤君、昼行かないの？」

児玉さんの声。

「いやあ、ちよつとね時間かかりそうだよ」笑いながら答えた。

「じゃあ、また今度ねー」笑いながら同僚たちと去っていく姿、ふうとため息

結局、20分オーバーか…中井の小言が長くなければな…しゃあな

い。まあ一人つてのも気軽でいい。

菓子パンと缶コーヒーを飲みながら、空をみる。

天気がいい 快晴!…本当は天気なんてどうでもいいけど、もうこうなりゃ「よかった探し」だ!

おおーい、いい天気だあ 私は心の中で控えめに叫んだ。

結局、ちよつとのズレがふくらんでいた。

画面がうつろな顔して早く電源を落としてくれと言っている。

まあ待て 俺だって早く帰りたいさ。

ふだんは困った事があると、助けてくれる?と調子のよい中部が声をかけて来た。

「わるいなあ じゃっお先!」

悪いと思っでなくせに…挨拶はいいから、帰れよ!ついでに中井部長も持つてつてくれよつて、あら部長いくの?

はあ 仲の良い事で。私は心の中で10回は悪態をつき、ネタが無くなった事でやっと落ちついて仕事に入った。

一人、職場の明かりを消す。

あー仕事した、こういう事が大切だったりする、なにかしらの充実感。

部長の小言も中部のアホ面も全て許してやる。

さあて、誰も居ないのをちよつと確かめる。

「許してやる」声に出して言ってみた。

大声だしいなあ、でもいいか、馬鹿みたいだし(もう充分馬鹿な

のは承知さ)。

でも声出した事で、ちよつとした開放感、こつという事も大切なのだ。いつも寄つていく居酒屋を目にしたが、酒を飲むよりさっぱりしたくて、今日は寄り道はしない。

シャワーを浴び男臭い部屋でビール。その事を楽しみに、電車に乗り、電車を降り、駅をでる。

汚いボロアパートまで徒歩18分、借りた時は徒歩15分つていう触れ込みだったが、現実はそのまんま。

夜の帰り道は嫌いじゃない、なんか汚いポスターとか、道に落ちていたゴミとか目立たなくて、まあマシつてだけ。

それに別に急ぐ必要もないし。それがなんだか贅沢な気分、自分だけの時間。

都会は夜も人通りが多い、でも他人が何かのオブジェのように感じて、寂しくなくて、悪くないと思う。

なんか無理やり盛り上げてたくて、ちよつと心の中で鼻歌を歌う。

別に鼻歌じゃなくてもいいけどね、心の中だから。

でもやっぱり歌には自信がないから、鼻歌な感じが丁度いい。

「さっぱりして…ビール！」鼻歌の合間に時々唱える、もちろん心の中で(あたりまえだ)。

それでもつてまた鼻歌。なんだか楽しくなつて、きたか？。

この通りを過ぎて角を曲げれば、もうすぐボロアパートが見える。

私の部屋の下の住人は若い青年(学生だろう)が住んでいて、いつも明かりがついている。

何故か知らないけど、カーテンを開けていて、彼の痩せた体がひよこひよこ動く。

俺の下に人が動いて、生活しているんだよなあと帰り道いつも思う。誰か知らないけど、それは一人暮らしの私をちよつと安心させる。

私は空をみた 月あかりに紫の雲が動いていた。  
もうすぐボロアパートが見える。

急に、両手を上げて少し背伸びしなくなった。  
立ち止まって両手を上げて、背筋をのばして、声をあげる。

「うーん……んあ？」

視界に入ったそれを、間抜けな声で受け止めてしまった。

薄ピンクで、黒い夜空に輝いてて、そんなもって、そんなもって…  
そう言えばもう4月かあ。

目の前の桜は満開で…綺麗だった。

何で気づかなかったんだろう？

いつもずっとこいつらと並んで歩いたのになあ。

私は風を感じながら確かめるようにそれを見た、桜はやっぱり綺麗  
だった。

私はなにかわからないけど、なにかを見つけた子供のような気分にな  
った。

ふふ、夜桜！

月の光が照らす桜が空の黒に散りばめている。

汚い街の美しい時。

風が気持ちよかった。

最近とても時間たつのがはやかったり、なんか寂しかったりするけ  
ど、でもそれ程悪くはない…そう思った。心が静かに弾んだ。

アパートが見えた、やっぱり私の部屋の下は明かりがついている。

青年がひよこひよここと動いている。

やっぱ、変な動きだよなあ、私は笑う。

「ちっぴりして、ビールだ！」私は声に出して歩いた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7915m/>

---

帰り道

2010年10月11日02時38分発行